

# 令和4年度 学校における働き方改革推進モデル校 実践報告

## 千田小学校

### 学校の概要

- 地域のサポートが手厚い。
- 創立100周年を見据えて教育活動の充実を図っている。
- 学校周辺の再開発に伴うまちの発展。

学校教育目標  
心豊かにたくましく 生きる力の育成



### 令和3年度の取組

#### 〈職員室の環境整備〉

- 職員室のレイアウトを変更することで移動する距離を短くなった。管理職が各教職員の様子を確認しやすくなった。
- 壁面収納にあった扉を外し、収納物を可視化した。個人資料の収納についても一定のルールを共有した。

職員室レイアウトの変更



職員室の環境整備



#### 〈学年間の教科担任制の実施〉

- 6年生3クラスで3人の担任教師が「体育科」「社会科」「図画工作科と書写」をそれぞれ担当し、担任しているクラス以外においても授業を行った。
- 他学年においても実施できるよう、得られた成果や課題を洗い出した。

時間割

	月	火	水	木	金
1					
2					
3			6-3図/書		
4	6-1社	6-3図/書		6-1社	
5	6-1図/書		6-2社	6-1図/書	
6	6-2社		6-3社	6-2社	
7	6-1図/書	6-1社		6-2図/書	
8	6-2社	6-2社		6-3社	
9	6-3社		6-1図/書		
10					
11					
12					

取組結果

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準備する教科が少なくなったので、準備の負担軽減が図られた。</li> <li>○ それぞれが得意とする教科を受け持つことで、より専門的な授業を行うことができた。</li> <li>○ 6年生担任3人で学年を3クラスの子どもたちを見る機会ができ、見守り体制が強化された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 急な変更への対応が難しい。</li> <li>○ 3クラスで行っているため、授業の組み合わせを考えると、調整が難しい。</li> <li>○ 担当教科によって、テストの頻度や内容が異なる。</li> </ul>

### 令和4年度の解消すべき課題

- 働き方改革についての意識が低いことから、実効性のある取組を行う必要がある。

R3アンケート結果

項目	肯定的な回答の割合
自校の働き方改革についての意識は高いと感じていますか。	38.5%

- 業務の協働化が進んでいないため、職場環境等を活用しやすいようにする必要があります。

R3アンケート結果

項目	肯定的な回答の割合
働き方改革の取組により、業務の協働化が図られていますか。	38.4%

### 令和4年度の主な取組

#### 学年内授業交換の実施

- 6年生においても担当教科の変更を行った他、5年生においても3人の担任教師が「社会科」「理科」「体育科・国語科(一部)」を担当し、担任しているクラス以外においても授業を行った。  
※専科教員による授業もあり、各担任において準備が必要な授業は週19時間程度になった。
- この他、Web会議システムを活用した複数クラス同時授業についても試行実施している。

実施概要

6学年	交換教科	週時数	交換教科	週時数	計	5学年	交換教科	週時数	交換教科	週時数	計
A	社会	3			3	A	社会	3			3
B	図画工作	2	書写	1	3	B	理科	3			3
C	体育	2	道徳	1	3	C	体育	2	国語	1	3

Web会議システムを活用した授業(イメージ)



## 働きやすい環境整備

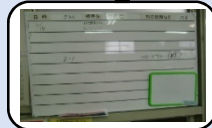
- 「『実効性のある取組を着実に積み重ねる』ことを大切に」という考えのもと、働きやすい環境となるよう、教職員の意見や校内研修における有識者からの助言を踏まえ、以下に示した取組を中心に実行した。

### 学年保管庫の整理



各学年保管庫より活用しやすいものとなるよう、一斉に整理整頓を行った。

### 電話連絡伝言板の設置



架電者からの再連絡時において、受電者が架電内容や対応方法等を確認できるようにした。

### 自主勉強会の開催



タブレットの使用方法等、知りたい内容の勉強会に参加できるようにした。若手・ベテラン問わず多くの職員が参加している。

## まとめ

### ◆校内アンケート結果等

- 「学年内授業交換の実施」により、教材研究の時間が軽減したと感じている該当学年の教員の割合は100%であり、教材研究の時間・準備等の時間や気持ちの面でゆとりが生まれるようになってきている。また、「学年チームで児童を見る」の考えから、掃除指導についても場所毎に行うようにしたことで、急な対応にも学年で当たる体制が取れ、大変有効だった。
- 「働きやすい環境整備」により、「学年保管庫の整理整頓ができている」と感じている教員の割合は81.0%であったことから、これまで続けてきた取組により、業務の協働化に向けて改善が図られてきていると考える。
- 個々人においても業務の見直し等を進めており、半数以上の教職員が「働き方に関して意識が変容してきている」と感じている。

R4アンケート結果等

項目	肯定的な回答の割合
学年内の授業交換の実施により、教材研究の時間が軽減している。	100%
学年保管庫の整理整頓ができている。	81.0%
働き方改革の各取組とあわせて個々に業務の見直し等を行うことにより、働き方に関して意識が変容してきている。	53.8%

### ◆プランの達成目標に対する実績(12月末時点)

- 目標1「全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校等時間:45時間以下」については35.4時間であり、達成できている。
- 目標2「連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間超の教職員の割合:0%」については0%であり、達成できている。
- 目標3「年次有給休暇の平均取得日数:16日以上」については12.2日であり、取得が進んでいる。

プランの達成目標に対する実績

項目	令和4年度 (12月末時点)	令和3年度 (12月末時点)
目標1	35.4時間	34.8時間
目標2	0%	0%
目標3	12.2日	9.3日

## 2年間の取組を通して

- 教職員の小さな要望に応じていくことが働く意欲や仕事のしやすさにつながり、働き方改革への意識の変容につながると感じた。
- 教職員間のコミュニケーションを大切に、ベテラン教員や得意教科のノウハウやコンテンツ等目に見えにくい個人の財産を皆で共有化できるような取組を行い、さらに仕事の効率化を進めていきたい。

## 取組に対する講評

- 教職員の声を聞いて、丁寧に形にしておられ、取組内容からも教職員が人ごとではなく自分事として考え取り組む風土が生まれているように感じる。
- 自主的な勉強会に主体的に取り組む教職員からは、資料作成は最初は負担だが、一度作れば今後も活用できるとのこと。この意識がまさに宝物なので、ぜひ継承いただきたい。